



6/7 事業費補助金の審査会で まちづくり活動をアピール

市内でまちづくり活動を行う団体を支援する「土岐市まちづくり支援事業費補助金」制度。今年度の支援団体を決める審査会が市役所1階の多目的スペースで開催され、10団体がプレゼンテーションに臨みました。10分間という限られた時間の中、各団体の代表者は審査員に活動の目的や今後の展望を説明するなど、熱心なアピールを行い支援を訴えかけました。



6/11 人を癒す花を育てたい 肥田小学校 人権の花運動

花を育てることで命の大切さや思いやりの心を育てようと、今年度の人権推進校に選定された肥田小学校で「人権の花 苗植え式」がありました。4年生の児童52人がマリーゴールドなど180株をプランターに植え、児童代表の兵頭碧唯さんは「落ち込んだときもきれいな花をみれば笑顔になれる。男の子も女の子も関係なく、人を癒す花を育てたい」とあいさつしました。



6/23 違うことを当たり前として受け止める 生徒指導主事がLGBTQ研修を受講

生徒指導を担当する小・中学校の教諭が参加し、LGBTQを含む性的マイノリティに対する理解と必要な配慮を学ぶための研修が市役所で行われました。オンラインで行われた研修では、LGBTQ当事者から自身の体験や周囲に必要とされる配慮などが話され、参加者は、正しい知識の教育、教職員や保護者など学校全体の啓発の必要性を学びました。



6/28 真っすぐに気持ちを伝える 土岐市青少年の主張 表彰式

コロナ禍のため、事前に撮影した映像による審査で行われた「青少年の主張」の表彰式が市役所でありました。市内中学校の代表生徒6人は、文学作品から豊かな表現を学ぶことの大切さや、自分の長所を探して自信を持つことなど、自らの経験をテーマに主張しました。審査の結果、話すことの大切さを訴えた土岐津中学校3年生の山田華暖さんが東濃審査会へ選出されました。

6/1 この地域の医療を守るため 東濃中部病院事務組合を設立

この地域の急性期医療と救急医療を将来にわたり守っていくため、新病院の建設と管理・運営を目的に設置する一部事務組合が発足しました。この日は組合に派遣される土岐市・瑞浪市の職員3人に辞令が交付され、組合の管理者となる加藤市長は、「安定した医療を提供する使命を持って職務に当たってほしい」と訓示しました。



6/3 初夏の風に鳴る風鈴の音♪ 土岐津公民館で恒例の風鈴まつり

土岐津公民館で例年開催される「風鈴まつり」。第6回目を迎えた今年はおよそ300個の陶製風鈴が飾り付けられ、涼しげな音が響き渡っています。風鈴は地域の方の手作りで、どれも個性あふれるもの。館長の鈴木美好さんは「喜んでくれる人が大勢いる。今年も風鈴の音色を聞いて涼んでもらえれば」と話しました。風鈴まつりは7月末まで開催され、来館者に涼を届けます。



6/上旬 織部の里公園の花ショウブ 静かに、鮮やかに咲き誇る

花ショウブを愛でながら野点を楽しむ織部茶会。例年、泉町久尻の織部の里公園で開催される同会は、コロナ禍のため中止になりましたが、同園内の花ショウブは、今年も紫や白色など鮮やかな花を咲かせ、訪れた人たちを楽しませていました。花ショウブ園には、20品種およそ1万5千株が植えられており、毎年6月上旬から中旬にかけて一面を鮮やかに彩ります。



公園職員

堀 功さん

花ショウブは朝、花を咲かせ、夕方にはしぼんでしまいます。しぼんだ花を摘み取り、実をつけさせないことで株が栄養を蓄え、来年もきれいな花を咲かせてくれます。来年は茶会とともに花を楽しんでもらいたいです。

